

1.件名	3.1 中東・アフリカ地域
2.事業名	3.1.2 ハイブリッド方式海水淡水化システムの普及可能性調査 2002(H14)
3.キーワード	ハイブリッド方式、海水淡水化、クウェート、カタール、アブダビ、フイージビリティ調査
4.目的	<p>湾岸諸国では、水インフラに係る費用は莫大であり、如何にこのコスト負担を軽減するかが大きな関心事であり、各国とも効率的で低コストの技術を必要としている。これらの国では、従来、水インフラ、電力インフラを一体的に整備する観点から、発電・海水淡水化の二重目的プラントの建設が大勢を占めているが、従来の海水淡水化は蒸発法が主体であった。</p> <p>近年、逆浸透法海水淡水化システムの開発が進み、蒸発法に対する経済優位性が証明されつつあるが、発電・海水淡水化の二重目的プラントとしては、海水淡水化として、蒸発法に逆浸透法を併設する方法、いわゆる「ハイブリッド方式海水淡水化システム」が、海水淡水化の総合効率を高めることが世界的に認知されつつある。しかしながら、湾岸諸国では、逆浸透法による海水淡水化システムの信頼性が薄く、ハイブリッド方式の認知・導入が進んでいない。</p> <p>本事業は、かかる背景のなかで、クウェート、カタール及びアブダビの3か国に対し、ハイブリッド方式海水淡水化システムのフイージビリティ調査を実施し、従来法に対するハイブリッド方式の優位性を示し、これらの国の同方式への理解度を深め、我が国の逆浸透法海水淡水化システムの普及、ひいては、ハイブリッド方式の普及を促進し、これらの国の、水インフラコストの低減に寄与しようとするものである。</p> <p>本調査では、各国の発電と水の需給バランスに適するハイブリッド発電・海水淡水化システムの概念設計を行った。また、ハイブリッド発電・淡水化方式と現状の発電・蒸発法淡水化システムとの経済性比較を行い、ハイブリッドシステムの優位性を明らかにするとともに、上記3か国を訪問し、調査結果を報告説明した。</p>
5.参照	助成：日本貿易振興協会